はじめに　5

第一章　日本の捕鯨文化……7

日本人と鯨の出会い――**初期捕鯨時代**　8

縄文人と鯨　8／縄文捕鯨の限定性　10／鯨底土器が物語るもの　12／弥生人は鯨を取ったのか　14／古墳に刻まれた捕鯨図　16／古代・中世の日本人は鯨を取ったのか　18／北の捕鯨文化　20

鯨組による日本独自の捕鯨法の確立――**古式捕鯨業時代**　23

捕鯨業は尾張(伊勢湾)から　23／紀州の突組の創業と進出　26／西海捕鯨の始まり　28／突取捕鯨法の限界　31／安房の樋鯨突取捕鯨と丹後、長州の断切網捕鯨　33／網掛突取捕鯨法の発明　35／西海漁場への網掛突取捕鯨法の導入　37／西海網組の第二世代　39／西海網組の第三世代　41／西海漁場の周縁　44／益冨組の繁栄　46／欧米捕鯨の脅威　48／日本在来の捕鯨法の考案・改良　52／欧米の捕鯨法の導入　54

世界の海へ――**近代捕鯨業時代**　59

ノルウェー式砲殺捕鯨法　59／ノルウェー式砲殺捕鯨の国内普及　63／南氷洋への出漁　66／減少する鯨　67

第二章　捕鯨図を読む――『勇魚取絵詞』……71

捕鯨図の世界　72
　捕鯨図の種類と系統　72／捕鯨図説の系譜　73
捕鯨図『勇魚取絵詞』を読む　78
「生月嶋全図」　79／「生月御崎納屋全図」　82／「生月一部浦苧綯図」　84／「生月御崎納屋網作図」　86／「生月御崎納屋場前細工図」（鯨船）　88／「生月御崎納屋場前細工図」（道具）　91／「生月一部浦益冨宅組出図」　93／「生月御崎西沖下鯨見出図」　96／「生月御崎沖座頭鯨網代追入図」　98／「生月御崎沖背美鯨掛取舁突図」　101／「生月御崎沖背美鯨一舁二舁突印立図」　103／「生月御崎沖座頭子持鯨剣切図」　106／「生月御崎沖持双船鯨掛挟槽立図」　108／「生月御崎浦鯨掛取槽込図」　111／「生月御崎納屋場背美鯨槽寄図」　115／「生月御崎納屋場背美鯨切解図」　117／「生月御崎浦大納屋図」　120／「生月御崎浦小納屋図」　123／「生月御崎浦骨納屋図」　125／「生月御崎納屋場羽差躍図」　128
第三章　鯨の恩恵……131
鯨とくらし　132
　鯨の分配とカンダラ　132／鯨製品の流通　134／鯨の価格　136／鯨を食べる　139／鯨料理の集大成『鯨肉調味方』　143／鯨油の効用　145／余すところなく利用された鯨　149／近代における鯨の利用　150
鯨と信仰　153

原始的な鯨に対する意識　153／鯨とエビス　155／鯨組の信仰　158／鯨供養の発生　160／紋九郎鯨の伝説と鯨組の遭難　163／鯨唄　166／鯨や捕鯨にまつわる祭　168／近代以降の捕鯨の文化　170

第四章　資料編――「鯨魚鑑笑録」

「鯨魚鑑笑録」翻刻　176

「鯨魚鑑笑録」解題　225

制作者・生島仁左衛門　227／「小児の弄鯨一件の巻」との比較　232／「鯨魚鑑笑録」の原本と写本　238／場面構成とその概要　241／「鯨組定法書」について　265

参考資料「鯨肉調味方」訳　271

捕鯨関連年表　281

あとがき　289

主要参考文献　291